

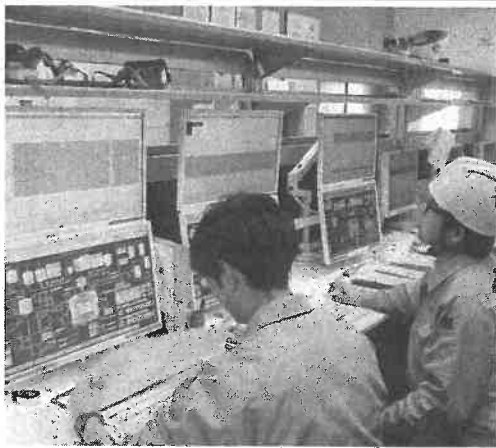
従業員の安全・健康柱に

大成ファイナケミカル 設備投資計画策定 ケミカル

作業環境改善

【千葉】大成ファイナケミカル（千葉県旭市、稲生豊人社長、0479・64・2077）は、本社工場（千葉県旭市）の作業環境の改善を柱とする2019年度（19年4―20年3月）から23年度までの5カ年設備投資計画を策定した。手動や人海戦術で行っている業務の自動化と省人化がポイントで、タブレット端末を活用した装置の稼働状況の可視化や、機械化による重労働の低減、原料投入の自動化などを実現する。これにより従業員の安全と健康を優先して働き方改革を推進していく。

具体的にはタブレット端末で装置の稼働状況を把握し、その入力し、コントロール



コントロールセンターで設備の稼働状況の集中管理を可能にする

センターで集中管理で原料や製品が入ったときのようにする。またラム缶などの重物の

移動をサポートするロボットなどの導入を進める。すでに5月の井戸水を活用する防爆対応の冷房機の追加導入と、12月までに局所排気設備の吸い込み部分の改良などを決めた。また18年度には製品を製造する釜の制御システムを更新し、従業員の動線を踏まえた省人化を図っている。

大成ファイナケミカルは18年4月に「省力化委員会」を設置し、製造と技術、営業、総務部門ごとに業務の自動化や省人化などを検討してきた。今後、同委員会の提案などをベースに、従業員の安全と健康を確保する設備に投資を進める。

働き方改革と同時に、現在の生産設備では難しい新製品を開発するための設備導入を計画しており、今後、新工場棟の建設を含めて検討していく。同社の19年度設備投資額は2億円で、5年計画で決定している案件だけで4億―5億円となる。